

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那南高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年10月28日（月） 13:30～15:30
- 3 開催場所 恵那南高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会長	鈴木 康博	元県立・私立高等学校長	
副会長	渡辺 康正	明知鉄道株式会社代表取締役	
委員	平崎 孝文	明智振興事務所長	
	根崎 育郎	本校同窓会長	
	中村 光代	恵那市立明智中学校長	
	塚田 直子	恵南商工会女性部部长	
	足立 伊公子	えな健幸生活支援隊事務局長	
	石田 宏樹	株式会社ROBOZ代表取締役	（欠席）
	杉浦 禎子	恵那南高等学校PTA代表	
オブザーバー	水野 正敏	岐阜県議会議員	（欠席）
	岡田 庄二	恵那市教育長	（欠席）
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター	

（敬称略）

学校側	安藤 範和	校長	河村 拓士	教務主任
	柴 成吉	教頭	上川 智草	記録係
	古田 智春	事務長		

5 会議の概要（協議事項）

（1）本校の現状と取組について

1. 令和6年度学校評価アンケート結果考察
2. 生徒支援部の取組
3. 令和6年度進路状況
4. COREハイスクール事業

（2）スクールミッションの策定について

- 意見1：スクールミッションの案はよく考えられ、本校の特徴を捉えた適切なものである。
原案のままで良い。
⇒全会一致で了承された。
- 意見2：学校評価アンケートの「体罰やハラスメントはない」という問いに対し、あてはまらないという答えがあったが、それに対する対応、取組はしているか。
⇒定期的に職員研修会を実施している。また、体罰・ハラスメント調査では1件も具体的な記述がないため、明確な体罰・ハラスメントではなく、厳しめの指導をそう感じる生徒がいるということだと理解している。指導すべきことは指導しなければならないが、多様な感じ方をする生徒がいるということを情報共有し、より丁寧な指導を心掛けるよう、職員間での合意形成を図っている。
- 意見3：恵那市からの明知鉄道利用者への通学補助が拡充され、利用生徒が増えた印象がある。
- 意見4：DXハイスクール事業の遠隔教育で個人に手厚い授業ができると知ったが、こうした取り組みを中学生にPRできるとよい。また、授業参観では個に対応した授業ができていると感じた。少人数ならではの生徒が交流し合う授業を今後も継続してほしい。
- 意見5：デュアル実習やインターンシップの取組はとてもよい。イベントの際にはボランティアで協力してもらい、助かっているので今後もお願いしたい。ボランティア部があると聞いたが、どのようなものか。
⇒全生徒がボランティア部にも加入している形になっているので、今後も可能な範囲で協力したい。
- 意見6：他校のデュアル実習がテレビで放送されているのを見たが、本校では昨年度から実施している。ギターマンドリンも全国大会で活躍したので、こうした活動を外部に発信してほしい。
- 意見7：恵那市南部地域5中学が統合され、スクールバスが運行されることになるので、それを本校生徒も利用できるように声を上げていきたい。
- 意見8：中高連携の視点で見ていたが、中学校では日常生活の質を高めることで質の高い教育につなげるようにしている。苦しいこと、苦手なことを避ける傾向もあり、通信制高校を選択する生徒も増えているが、対面につきあうことで学ぶことは多いので、近くの高校でこのように様々な学ぶ場が設定されていることはありがたい。
- 意見9：女子の制服でパンツスタイルが多く選ばれていることが印象的であった。
- 意見10：コンビニエンスストア前の道路で横断歩道ではない所を横断している例があるので指導してほしい。
- 意見11：整理されたロッカー、授業を受けている雰囲気などから、学校の落ち着きが肌に伝わってくるような印象を受けた。
- 意見12：学校評価アンケートの数値を見るだけでなく、それをもとに対応をしっかりとしている点がとても良い。授業のスタイルもコンピュータを自然な形で使っており、感心した。
- 意見13：地域との連携は大切だが、地域とはどこまでを指すのか。明智町など、狭い地域では限界があるので、もっと広い意味での地域に魅力を発信できるとよい。入学生がどの地区から多く来るようになっているのかも知りたい。
⇒地元である恵那市南部地域からの入学生が増加しており、明知鉄道の通学補助の影

響もあってか恵那東、西中学校からも増加傾向にある。他市からも一定数が入学している。

意見14：初めて子どもが授業を受けている姿を見たが、本当に少人数で丁寧に個別に対応してもらえており、感謝している。

意見15：特別支援教育支援員の配置によるきめ細かい指導、タイムリーな主権者教育、特色ある観光資源研究の授業、ホームページの活発な更新など、本校の魅力を多く感じた。

意見16：地元子どもを残し、出て行っても戻ってくるようにし、地域の衰退を食い止めるためには地元の産業界の手助けが必要。デュアル実習やインターシップ協力校にサポーターになってもらうなど、今後も産業界と学校がどう関わっていけるかを考えていく必要がある。

意見17：介護人材の育成など、本校が地域に必要な学校となるためのビジョンが必要。地域のためには上からの指示を待つだけでなく、ボトムアップ型のまちづくりをしていく必要がある。

意見18：対話型の生徒が活躍する授業は素晴らしいと感じた。こうした良さが伝わってほしい。無料のバスのような交通手段さえあればさらに良い。今後も本校が存続できるようにボトムアップ型で声を上げていきたい。

6 会議のまとめ

- ・スクールミッションの策定について全会一致で承認が得られた。
- ・学校評価アンケートの考察を行った。アンケートでは保護者および生徒から概ね高い評価を得ているが、改善すべき点もあった。課題となった点については、あらためて職員で共有し、今後の学校運営に生かしていきたい。
- ・現在の教育実践や取組についての理解と評価を得ることができた。授業参観を行い、少人数での対話型授業、系列の特長を生かした多様な授業、ICT機器の活用状況、生徒が授業に積極的に取り組む姿勢などに高い評価が得られた。
- ・良い取組を多く行っているが、その学校の魅力が地域に十分浸透していない、というのが委員の共通した思いである。今後も積極的な情報発信に取り組むとともに、地域の産業界にも協力を得られるように取り組んでいきたい。